

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 復興支援 - 10

学校名・団体名	名取市立みどり台中学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	表現活動による生徒の心の成長を目指して

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1. はじめに

本校は、東日本震災直後の平成23年度から学区改編により、5つの団地、3つの小学校からなる学区となった。震災の影響として同じ市内の沿岸部や福島県からの原発避難の転入生もあり、改編当時は、地域同士の連携がうまくいかず、発生した震災により生徒達の気持ちにも不安定さが見られ、正常な形での教育活動が困難となった。生徒達から笑顔が消え、指導が困難な場面も多々見られた。そのような中で、保護者の方々のボランティアによる学校の清掃活動や補修作業、朝のあいさつ運動、4団地の会の皆さんによる合唱コンクールでの校歌の披露など、多くの協力により少しずつ正常な形で学校が機能し始めた。

そのような経緯もあり、平成28年度入学生については、次の2点に力を入れ継続して指導してきた。一つは「生き方学習」、もう一つは「表現活動」である。特に後者では、合唱やミュージカル等の音楽活動に力を入れて取り組んできた。1・2年と継続的に取り組んできたということもあり、3年生になった今年のみど中祭では「今年も皆に感動を与えられるようなステージを作りあげたい」という意欲に加え、「今年は全員で1つのステージを創り上げたい」ということを考え、実行委員を立ち上げ、ミュージカルだけではなく、和太鼓・よさこい・ミュージカル・裏方と四部門に分かれ、総合芸術的なステージを創り上げるためのプロジェクトが始動した。

2. 活動報告

9月8日（土）に行われたみど中祭に向けて生徒主体の実行委員会を立ち上げ、準備を進めてきた。和太鼓、よさこい・ソーラン、ミュージカルの3部門と裏方のどれかに生徒は所属し、活動を進めてきた。

【和太鼓部門】

和太鼓に関しては、指導できる教員もおらず手探りの状態であったが、近隣で活動している民族歌舞団「ほうねん座」の皆様をいただきながら活動を進めた。計4回の指導の機会であったが、生徒は熱心に練習に取り組み、技術を吸収した。講師の先生が来ない時も、自主的に練習を進め、技術の習得のみならず、自主性やリーダー性の育成にもつながった。

【よさこい・ソーラン部門】

よさこい・ソーランに関しては、本校の伝統として卒業生が後輩の指導にあたるということが長年続いている。今年は、地域の方もボランティアの講師として招き、指導していただいた。リーダーがボランティアに教えてもらい、それを一般の生徒に教えるという形で少しずつ完成に近づいていった。一番人数の多い部門でリーダー達は大変であったが、日を追うごとにまとまりも見られるようになり、心をつなげて踊る楽しさを感じることができるようになり、一体感や連帯感が生まれた。

【ミュージカル部門】

1年生の「オズの魔法使い」2年生の「ピノキオ」と2年間継続的に取り組んできたミュージカル。



今年は修学旅行で全員で見た「アラジン」の感動が大きく、生徒達は演目に選んだ。1・2年時での土台の上に今年は、台本づくりから生徒達で取り組んだ。自主的にオーディションを行い、適役になるよう話し合いを重ね工夫した。振付や衣装、音響照明に関しても自分達で工夫し、一からステージを創り上げた。その中で、昨年からお世話になっているイリナミュージカルの伊勢ちかこ先生に4回ほど指導をいただいた。また、裏方の生徒の活躍も大きく、小道具や照明の生徒との打ち合わせを重ね、演技の完成度が高まるように一体となって取り組む様子が多く見られた。



【みど中祭当日の様子】

当日は、地域の方や多くの保護者にご来場いただき平成28年度入学生のみど中祭への3年間の取組



の集大成を発表することができた。一つのものを創り上げる過程を大切に、表現する喜びや楽しさを味わうことができた。お互いに励まし合ったり、意見を出し合ったり、より良いものを創り上げようとする姿勢、一人一役を合い言葉に選択した部門に対してやり遂げようとする責任感、そして皆で一つになり一生懸命に演じる姿が見る人の心に届いた一日となった。

3. 成果と課題

【成果】

- ・ミュージカルや表現活動は、単に表現力の向上のみならず、集団としての向上が図れた。学年全体で一つのステージを創り上げるという目標を設定し、集団の中での自己の役割を自覚させることにより、責任感の向上や仲間と協力して物事を成し遂げることができた。また自分や仲間の良さを知ること個性の伸長や思いやりといった道徳的な心情についても変容がみられた。
- ・ステージを創り上げるために一人一人が欠かすことのできない存在であることを知ることができ、自己有用感の高揚にもつながった。
- ・指導に当たった講師や地域の方々との交流を通し、ものの見方や視野が広がり、新しい自分を発見できる機会となった。

【課題】

- ・授業時間の確保や働き方改革等の教育に関わる社会の変化の中で、いかに時間を上手に使い、教育的効果のある活動にできるか、時間的制約はもちろんだが、教員の指導をサポートしてくれる人材の発掘ということも大切になってくる。教員側の調整能力やスキルを身に付けていくことが今後ますます必要になってくる。

4. まとめ

3年間を通しての表現活動への取組は、これから進路実現に向けてそれぞれの道を歩みだす3年生にとっては、大きく社会が変化しても、たくましく生き抜く力の根底になると考えられる。保護者の感想の中に、「1年生の時から積み重ねで、確実に個々の力だけではなく、学年全体の力が数段アップしたことを感じた」という記述があった。ねらいとしていた表現活動による生徒の心の成長は、見る側に十分伝わったのではなかろうか。そして何より、生徒達自身が互いに前を向き、同じ思いを共有しながら残り少ない中学校生活を前向きに送ることができたことは、無限の可能性を持つ生徒達にとってかけがえのない財産になった。